

氏名	新井 龍
学位の種類	修士(看護学)
学位記番号	修士 第110号
学位授与年月日	平成20年9月3日
学位論文題目	大谷藤郎氏における共生の思想の形成過程

## 論 文 内 容 要 旨

※整理番号	114	(ふりがな) 氏 名	あらい りゅう 新井 龍
修士論文題目	大谷藤郎氏における共生の思想の形成過程		
<p>目的</p> <p>本研究の目的は大谷藤郎氏の著書から“共生の思想”の形成過程を辿り、氏の道徳的アイデンティティに重要な影響を及ぼしたと考えられる人物や体験を抽出し、“共生の思想”の形成との関連を記述することである。</p> <p>方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象著書を熟読し、当時の時代背景、大谷藤郎氏の思想形成過程の年表を作成する。</li> <li>2) 年表から、思想形成過程における時代区分を行う。</li> <li>3) 上記 14 点の著書より、共生の思想の形成に影響を及ぼしたと考えられる内容の記述を取り出し、要約する。</li> <li>4) 要約したデータの内容を、体験・出来事・他者との係わりの視点から分析し、テーマを抽出する。</li> <li>5) 分析段階において、テーマの解釈、要約について指導教員にスーパーバイズを受けながら分析を行う。</li> <li>6) 分析した結果と作成した年表を統合し、共生の思想の形成に及ぼした体験・出来事・他者との係わりについて考察する。</li> </ol> <p>結果</p> <p>大谷の著書より、思想形成に関係のあるエピソードが 56 抽出できた。これら 56 のエピソードについて内容を吟味した結果、【模倣】【アイデンティティの確立】【思想の転換】の 3 つの時期に分類できた。【模倣】では 22 のエピソードがあり、《父の影響》《母の影響》《救世軍》《幼少期の教育》《戦争体験》《小笠原登氏との出会い》という 6 つのテーマに整理することができた。【アイデンティティの確立】では 26 のエピソードがあり、《結核への罹患》《精神衛生課勤務時代》《オーストラリア抗原陽性血廃棄》《国立療養所課長歴任》《プライマリーヘルスケア提唱》の 5 つのテーマに整理することができた。【思想の転換】では 8 のエピソードがあり、《人権 NGO の指摘》《らい予防法廃止》の 2 つのテーマに整理することができた。</p> <p>考察</p> <p>【模倣】の段階の大谷は自身の思想ではなく、重要他者である幼少の頃よりみた山室軍平氏や、ハンセン病患者に対応する小笠原登氏の姿に憧れを持ち、道徳的アイデンティティを模倣したと考えられる。</p> <p>【アイデンティティの確立】の段階の思想では、幼少期から青年期にかけて培った自身の道徳観に、民主主義によって得た思想を、行政側の立場から医療の平等を実践したと考えられる。</p> <p>【思想の統合】の段階に大谷は、欧米の人権に対する価値観と日本の人権に対する価値観に大きな差があることを学んだ。大谷の共生の思想は、欧米の人権に対する思想がきっかけとなり、今まで築いた道徳観を統合し導き出された思想であると考えられる。</p> <p>総括</p> <p>大谷は、青年期に道徳的アイデンティティを確立させる人格者に出会い、模倣しながら自己のアイデンティティを確立させていった。しかし、人権 NGO の指摘を受けたことにより、これまでの思想を統合した結果、共生の思想を導き出し、自ら実践したのであった。</p>			
<p>(備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200 字程度)</p> <p>2. ※印の欄には記入しないこと。</p>			